

珠洲市における地域公共交通活性化・再生総合事業(調査事業)

地域公共交通総合連携計画策定調査の必要性

人口減少・高齢化が急速に進む過疎地域である珠洲市では、人口減少に伴って公共交通利用者が減少し、民間の交通事業者による十分なサービスが提供されにくくなっている。今後ますますの高齢化が予想されるため、市民生活の足の確保が課題である。また、公共交通の運行を維持するため運行費用に対して行政支援が行われているが、利用者減少は、地方財政への負担増を招いている。このため、公共交通の効率的な運行と利用促進を図り、持続可能な公共交通ネットワークの構築を図る必要がある。

珠洲市地域公共交通活性化協議会

珠洲市、北鉄奥能登バス(株)、スズ交通(株)、(有)めだか交通、(有)恋路観光バス、学識経験者、区長会連合会、公募市民、珠洲商工会議所、市内高等学校、珠洲警察署、道路管理者、石川県、北陸信越運輸局石川運輸支局、他

総合連携計画策定調査実施計画の概要

◆地域公共交通活性化協議会の議論

- 第1回 (H19.10.21)
 - ・協議会発足
- 第2回 (H19.12.1)
 - ・調査計画の検討
- 第3回 (H20.2.16)
 - ・調査結果
 - ・課題に関する議論
- 第4回 (H20.4.20)
 - ・実験案の検討
- 第5回 (H20.6.15)
 - ・実験内容の決定
- 第6回 (H20.8.31)
 - ・課題の実施内容
- 第7回
 - ・連携計画素案検討
- 第8回
 - ・連携計画の策定

(1) 現況の整理

- ① 現行サービス水準の整理 ② 地域特性の把握

(2) 利用状況の把握

- ① 乗降客数調査による利用者数の把握
- ② バス利用者ヒアリングによる利用状況の把握
- ③ 市民全世帯アンケートによる市民ニーズの把握

(3) 公共交通ネットワークの方向性の検討

- ① 基本方針 ② 課題の整理 ③ 方向性

(4) 具体的な実施方策の検討

① 部会による詳細検討

- 1) 利用者PJ会議
 - ・利用促進案の検討
- 2) 運行事業者PJ会議
 - ・運行事業者による運行手法の検討
- 3) スクールバスPJ会議
 - ・スクールバスと路線バスの競合の解消

② 運行実験の実施

- ・短期間の2つのバス運行実験によるPRの実施
- 実験1. 買い物割引「おでかけバス100円券導入実験
- 実験2. デマンド型乗合バス「おかえりバス」運行実験

総合連携計画の策定

◆総合連携計画の策定のための2つの実験を試行

[実験の目的] ①市民へ向けた周知PRと啓発

- ・バスの利用促進をめざした市民意識の醸成
- ②持続可能性の検討
 - ・持続的な実施に向けた課題の抽出

[実験内容]

実験① 買い物割引「おでかけバス100円券」導入実験

・買い物でバス料金を割引。バス利用の促進とまちなか買い物客増をめざす

- 1 バスの中で引換券を1枚もらいます。
- 2 協力店で1,000円以上の買い物をすると、「引換券」と交換し「おでかけバス100円券」が1枚もらえます。
- 3 「おでかけバス100円券」でバス運賃が割引。実験期間中ならいつでも使えます。※使用するときは1回1枚です。



実験② デマンド乗合「おかえりバス」運行実験

・まちなかからの帰りの足を増加。市民の利便性を向上させバス利用を促進

- 1 珠洲市総合病院で診察前。おかえりバス(総合病院)でバスを待ちます。
- 2 まちなかで買い物。
- 3 予約したあいあいパーク(総合病院)でバスを待ちます。
- 4 バスで帰宅します。



◆その他

- ・スクールバスへの混乗による利便性向上、バス利用促進キャンペーン
- 地域でバスの運行を支える取組みの展開 などを検討